

第2回福祉部会 主な意見

- ・第5次地域福祉活動計画の策定に伴い、地域住民の意見を反映させるため、各校区で地域福祉の在り方を議論する「協議の場」を設けてきたので、そこでの議論を報告。
- ・「協議の場」で議論した、各校区で取り組むべき活動の優先順位付けは下記の通り。

【池上校区】

- ・①「協議の場」②「カフェサロン」③「各種見守り事業」④「防災対策」⑤「いきいきサロン」⑥「空き家対策」⑦「小学生福祉講座」⑧「エプロンTシャツ」⑨「認知症サポーター養成講座」

【幸校区】

- ・①「協議の場」②「防災対策」③「見守り事業」④「ふれあいモーニング」⑤「社協・ボランティア活動のPR」⑥「敬老イベント」⑦「認知症サポーターの養成講座」⑧「カラオケ介護の支援」⑨「いきいきサロン」
- ・どんな活動も、人材の確保や体制、決め事を作らないと進まないなので「協議の場」が上位になった。
- ・今ある地域福祉に関する活動をやっている団体の人材をコラボしてうまく活用できれば各活動を実施するための人材確保に繋がると思う。
- ・各活動を地区ごとにバラバラにやっているの、横串で繋ぎ、まとめてやることで人材の確保に繋がり、もっといろいろなイベントも実施できるようになると思う。
- ・防災活動については、隣保館などのまち全体に関わる施設の機能を活用して対応できるようにしていけばよい。

● 福祉部会で考えるべきことについて

- ・参加者が固定化されつつある一方で、福祉部会の取組みを知らない方、1人で参加しにくい方もいると思うので、この場の取組みの情報をきちんと届けていく必要があると思う。
- ・活動していないけど、やりたいと考えている人はいると思うので、池上・幸校区共同で、福祉活動の人材育成のための共同セミナーを実施してはどうか。
- ・若い人に参加を促すには、若い人でも興味を示し、参加したいと思うテーマの設定が必要。
- ・“地域”でお金を稼げる仕事があるとよい。そのために、付加価値を生み出せるような人材育成ができる人を連れてくることも必要だろう。

● その他

- ・会議への新たな参加者を増やすためにも、会議の周知方法を見直してほしい。
- ・欠席された方に議事録を送るなど、次回の会議に出席しやすくなる手立てを考えてほしい。